

70代で家事の大変さを知りました

シルバー人材センター副会長
大西 恒彦さん

2年前、妻の大腿骨骨折をきっかけに76歳で介護と家事をすることになりました。結婚してから仕事や様々な会の世話役等、やりたい放題にやらせてもらい、家事や育児、体調管理まですべて妻任せでした。ですので、初めは本当に大変でした。料理、洗濯、掃除、買い物、ごみの分別、布団干し等細かいところは入院中の妻に電話で聞きながら覚えていきました。ちょっとした大工仕事までやってしまう活発な妻が動けないのは、本当につらいと思います。ですので、妻に感謝して、いつも笑顔で妻に頼まれたことは最優先でやっています。介護はいつ起こるかわからないので、通帳や衣類の保管場所くらいは、知っておいた方がいいと思いますね。

(高橋弘美)



家族の時間が、大切な思い出に

親子英会話サークル ウェイン・バクスターさん

小学生二人の父親です。妻もフルタイムで働いているので、家事・育児は半分ずつ担っています。子どもたちの学校行事では、PTAの集まりは妻が、図書ボランティアの読み聞かせは私、と二人で参加するようにしました。日本の男性は働き過ぎですね。英語に「work to live」という言葉があります。仕事だけでなく家族や趣味も大切です。子どもとの時間は大事。疲れていても子どもと楽しく遊んだことが、いつか良い思い出になると思いますよ。

(竹下)

競争社会のなかで

メンズリブ市民活動、男性学の背景

中村 彰さん

団塊の世代の私は古希を迎えました。敗戦後の混沌とした時代に生を受け、貧しさの中でも、新しい国づくりに燃える世を生きてきました。オンボロ校舎の教室ではちぎれるほどのクラスメート。すし詰め教室で学びました。前年までだとやすやすと合格を勝ち得た大学に入りたくても、激しい競争が待っていました。世はミニスカートが流行り、華やかな青春時代を生きることになりました。一方で、激しい大学紛争の当事者でもありました。幼いころから、競争を勝ち抜くことを求められ、自らその競争の連続に立ち向かっていきました。

どの仕事に就くかも競争でした。就職後も出世の道というサバイバルを生き抜きました。定年後、やっと、自分ペースで生きられるようになったと、一息つきました。

高齢になり気づいて見れば、自力で生きていけるあいだはいいにしても、介護を受ける身になれば、介護施設、ヘルパーさん、介護士さん、理学療法士さん、作業療法士さんの世話にならなければなりません。墓地だって一。やはり、競争です。ほかの世代より激しい競争を生き抜いていくことを余儀なくされています。競争の明け暮れで、男たちが、身体も心も疲弊しています。

生き方を見つめなおそうよ。息苦しいとき、立ち止まってもいいではないか。新しい生き方探し。



父や祖父が、反面教師です

会社員 オルシニ・ジュリオさん

一人暮らしが長かったので、家事等もできることは、自分でします。無理やり人にやらせる人にはなりたくないと思っています。イタリア料理にはこだわりがあり日常的に食べたいので、自分で作るのが一番おいしくできて安上がりです。パスタは私が、和食は妻が、という風に料理は得意な方が作ります。イタリアは今でも「家事や育児は女性がこなすもの」という意識が根強く残っています。子どもの頃、父や祖父を見ていて、疑問に思っていました。大学では、社会学で日本のことや日本のジェンダー研究(Gender Studies)を学びました。日本に住む友人たちと日本のジェンダーのあり方について話すこともあります。妻とよく話をすることが夫婦円満の秘訣でしょうか。

(高橋佑夏)



女性の力を入れて新しい農家に！

関ファーム 関 健一さん

父親の病をきっかけに、家庭内農業に限界を感じ、10年ほど前から家族以外の人に働いてもらっています。

ハウス栽培の各段階の細かい作業も女性は集中してうまくやってくれます。家族以外の人と働くことで良い緊張感も生まれました。農業は男女、年齢を問わずできる仕事だと思います。スタッフには市外から農業を志す女性も通っています。更衣室を設け、休憩室に電子レンジを置き、週休2日制を取り入れる等、女性が長く働きやすい環境作りにも取り組んでいます。

(佐野)



「子どもの成長を見逃すまい」と始めて

大学職員 池田 拓さん

家族は4人、妻と一男一女の子ども二人です。結婚してもすぐには子宝に恵まれず、子どもが生まれた喜びはひとしおでした。ギターや工作等得意なことを活かして自分らしい子育てに全力を注ぎ、子どもととことん楽しみを共有します。男女が平等なら、老若も平等、親子関係は対等と考え、子どもとつき合っています。

不惑の年に地域貢献で、在住市の児童福祉審議会委員を始め、今は会長です。今まで知らなかった昼間の街の姿やその人脈から新しく気づいたこともあります。

勤め先の大学の先生方からも多くを学び、「介護も子育ても一緒」と教えられ、次世代を考えるなかで、保